An aerial photograph of a city development project. The image shows a mix of residential areas, commercial buildings, and infrastructure. A prominent feature is a large, curved road or canal that runs through the center of the development. The surrounding area includes green spaces, parking lots, and various types of buildings. A blue text box is overlaid on the right side of the image, containing Japanese text.

研究学園都市計画事業
葛城一体型
特定土地区画
整理事業
の歩み

事業竣工にあたって



独立行政法人都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
つくば・千葉常盤担当推進役
海岸 茂美

このたび、「葛城一体型特定土地地区画整理事業」は、平成26年6月の換地処分のお知らせをもちまして、無事、事業完了の運びとなりました。

今日までの関係地権者の皆様方、歴代の土地地区画整理審議会委員、評価員の皆様の多大なご協力とご支援に深く感謝申し上げますとともに、茨城県及びつくば市をはじめとする関係機関各位に対し、心より厚くお礼申し上げます。

さて、当事業は、つくば市域におけるつくばエクスプレス沿線開発地区の一つとして、研究学園都市中心地区に対する副都心の形成、鉄道の整備と一体となった街づくりのための都市基盤の整備及び豊かな緑環境を有する住宅地の形成を目的として、平成13年3月の事業計画認可を受けスタートしました。その後、日本自動車研究所の移転、つくばエクスプレスの開業などの大きな節目を経て整備を進めてまいりました。この間、長引く経済不況や地価下落等、事業を取り巻く環境は厳しいものがありましたが、これを乗り越えて換地処分を迎え、当地区の街づくりは新たな段階を迎えることになりました。

これまで幹線道路や緑豊かな公園等の公共施設が整備される中で、市庁舎、商業施設、業務施設、住宅等の立地が進み、現在では9,000人ほどの人々が住まわれるなど、副都心にふさわしい賑わいと活気のあるまちが出現しつつあります。

これからも「研究学園葛城」地区が、この事業で整備された道路や公園、宅地を活かして益々発展し成熟した街になるとともに、活力あるつくば市を築く推進力となることをご祈念申し上げます。



T・X沿線、葛城・遠東地区
まちづくり協議会
会長 **飯島 昇**

T・X沿線、葛城・遠東地区まちづくり協議会は、平成7年に組織されました。

平成11年に、土地地区画整理事業に関し、概ね15年間での事業完了を旨として茨城県・つくば市・まちづくり協議会の三者で覚書を交わし、さまざまな事業を進めてまいりました。特にUR都市機構に於かれましては、まちづくり協議会の事業に対し多大のご理解ご協力を賜り、予定内での事業完了を迎えられたこと厚くお礼申し上げます。

区画整理事業は完了しても、研究学園駅を中心とした開発は未だ道半ばであり、協議会としては、引き続き地域住民と、茨城県・つくば市と協調し、まちづくりを進めていきたいと考えております。

特に今日、我々が進めてまいりました千本桜まちづくりでの植樹事業についてUR都市機構のご協力のもと、平成19年より5ヵ年計画で進めて参りましたが、平成26年2月を以って完了し、関係者皆さまに厚くお礼申し上げます。

葛城・遠東地区まちづくり協議会といたしましても、つくばエクスプレスと共に地域の発展に努力していきたいと思っております。

今後とも関係者皆さまのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。



研究学園都市計画事業
葛城一体型特定土地地区画整理審議会
第1期会長 **高野 正義**

平成13年の事業開始から14年を経て事業の竣工を迎えることを大変喜ばしく存じます。

研究学園都市計画事業葛城一体型特定土地地区画整理事業では、商業・業務用地、沿道サービス街区、民有緑地、早期建設対応宅地、大街区対応宅地を対象に申出換地を行いました。申出数が予想以上だったため、都市再生機構では取りまとめをするのに大変な作業だったことと思います。ありがとうございました。

地権者皆様のご理解ご協力に対しまして、厚くお礼申し上げます。また施行者である都市再生機構並びに茨城県・つくば市の行政当局に心から感謝申し上げます。

研究学園駅中心地区は発展途上にありますが、広大な住宅地・商業地をかかえる葛城・遠東地区においては根強い人気があると思っております。この事業は本年6月に完了することとなりますが、このまちを発展させていくために地権者、住民が中心となってまちを育て、次の世代に引き継いでいきたいと思っております。

今後ともご支援を賜りたくお願い申し上げます。



研究学園都市計画事業
葛城一体型特定土地地区画整理審議会
第2期会長 **野堀 喜作**

平成6年7月7日の茨城県、つくば市、地権者代表、3者の七夕合意から20年という歳月を重ね、事業の竣工を迎えることが出来たことに大変感激と感謝の気持ちで一杯です。

楽しかったこと、激論を交わした事、先進地の研修、公団・県・市のこの事業に係わって頂いた皆様の多大なるご協力により、つくばエクスプレスの駅の内周最大面積であるつくば研究学園駅が、非常に順調に開発されておられるのも、皆様のご指導と各地権者の皆様の献身的なご協力の賜物でありましたことが、予定通りに近い事業竣工を迎えられたことだと確信致して居ります。

それでもリーマンショックの前の小バブルが弾け、日本中がダメージを受けた時は本当に大変不安な毎日でした。工事もストップ、カラスばかりが空地を占領しているような状況から、短期間でここまで色々な施設や住宅が沢山はりつき、市役所が完全に機能を始め、素晴らしい街作りが進んでいることを実感しているところです。

この葛城地区が他の地区のモデル地区になれるよう、私達地権者も力を合わせ作って良かった、住んで良かった街作りに邁進して行きたいと思っております。皆様のご協力もお願い申し上げます、感謝の気持ちとさせていただきます。



研究学園都市計画事業
葛城一体型特定土地地区画整理審議会
第3期会長 **高谷 榮司**

事業開始から14年の歳月を経て、ここに葛城地区土地地区画整理事業が竣工を迎えることは、大変喜ばしく心よりお祝い申し上げます。

事業期間中の長きにわたり、施行者である都市再生機構並びに茨城県及びつくば市の行政当局のご努力に感謝するとともに、多くの地権者の皆様のご理解とご協力に対し厚く御礼申し上げます。

さて、本区画整理事業は事業期間中に開通した高速鉄道「つくばエクスプレス」が大変大きなインパクトをもたらしました。特に事業区域内にある研究学園駅を中心に高層マンション、大型ショッピングセンターや各種商業施設が進出し、賑わいが生まれ、街並みも順調に形成されているところです。

さらに、平成22年にはつくば市のシンボルである市役所新庁舎が立地したことにより、研究学園駅とともに街の二大拠点を形成し、人の流れがより一層活発になってまいりました。

今後も葛城地区を「都市」「自然」「知」を活かした新しい生活スタイルを楽しむことのできる街として育み、快適な生活空間として末永く後世に引継がれることを期待しています。



事業の背景 - 筑波研究学園都市の建設

国家プロジェクト 筑波研究学園都市の建設

筑波研究学園都市は昭和38年9月の閣議決定により、その建設が決定されました。

昭和55年3月までには、国の試験研究機関、大学等が移転・新設されるとともに、基幹的な都市施設がほぼ完成しました。

昭和60年には47か国と65の国際機関や企業が参加して国際科学技術博覧会が開催され、国際的に科学技術先端都市の姿が紹介されました。

現在、筑波研究学園都市は外国人を含む約2万人の研究者と約140の研究機関、大学を有し、最先端の研究設備が数多く整備される、世界有数の研究開発及び人材育成拠点となっています。

筑波研究学園都市の位置と区域・都市構造

筑波研究学園都市は、東京の中心から北東約60km、茨城県南部に位置しています。

研究学園都市の区域は、つくば市の1市全域で、面積は約28,400ha(東京都区部面積の約2分の1)、大部分が標高20~30mの比較的平坦な台地です。

都市の中心部の東西6km、南北18kmにわたる約2,700haの区域を「研究学園地区」として開発し、国の試験研究・教育施設、商業・業務施設、住宅等を計画的に配置しています。

研究学園地区以外の区域は、「周辺開発地区」として研究学園地区と均衡のとれた発展を図るよう整備が進められています。

周辺開発地区では、研究開発型の工業団地が整備され、現在つくばエクスプレス沿線開発が進められています。

広域交通網整備計画と筑波研究学園都市

筑波研究学園都市の都市基盤整備が完了した頃、東京都心と結ぶルートはJR常磐線と常磐自動車道のみでした。その後、平成17年には待望のつくばエクスプレスの開業により、首都圏へのアクセスが飛躍的に向上し、つくば市は、茨城県の拠点都市として、首都圏においても重要な都市へと発展しています。

また現在、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の建設が進められており、「つくば中央IC」から東関東自動車道の「大栄JCT」までの間が平成26年度中に開通する予定です。この区間が開通すれば成田国際空港までの所要時間は大幅に短縮され、世界とのつながりが更に広がることが期待されます。

■筑波研究学園都市の区域図



葛城地区の開発経緯

新線構想の芽生えから都市と鉄道の一体開発へ

筑波研究学園都市の整備に合わせて計画されたのが常磐新線(現つくばエクスプレス)です。昭和60年7月の運輸政策審議会で「東京圏における高速鉄道を中心とする交通網の整備に関する基本計画について」が答申され、常磐新線は都市交通政策上、喫緊の課題と位置づけられました。また昭和63年6月の「総合土地対策要綱」で宅地開発と交通アクセス整備を一体的に進める事が閣議決定されました。

これらを経て、平成元年に「大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法(一体化法または宅鉄法)」が成立し、常磐新線構想は鉄道と沿線開発を一体的に行う国家的なプロジェクトに位置づけられました。

沿線開発においては4都県全体で約3,000haの整備が進められており、茨城県内ではこのうち約1,700ha、8地区で開発事業が行われています。

葛城一体型特定土地地区画整理事業について

葛城地区は、平成9年3月に茨城県及びつくば市から住宅・都市整備公団(現在の独立行政法人都市再生機構)が事業要請を受け、平成13年3月に葛城一体型特定土地地区画整理事業として事業認可を受けました。

事業認可後は公共施設の整備とともに宅地整備を進め、平成26年6月に換地処分を行いました。

筑波研究学園都市葛城地区の歴史

明治22年に発足した新治郡葛城(村)は、明治29年に筑波郡に移行し、昭和30年に周辺の村と合併して谷田部町となり、葛城村は廃止されました。その後昭和62年11月に谷田部町が桜村、豊里町、大穂町と合併して、つくば市となっています。戦後は農地として開拓されましたが、その後県の用地買収により、昭和44年に日本自動車研究所が開設されました。同研究所は葛城地区の開発に伴い、2005年(平成17年)に機能の一部を残して茨城県城里町に移転しました。



■筑波研究学園都市と葛城地区の位置図





つくばエクスプレスについて

プロジェクトの目的

つくばエクスプレスプロジェクトは、首都圏北東部地域の交通体系の整備と沿線まちづくりを一体的に行う事業です。国際科学技術都市「筑波研究学園都市」と東京都心をダイレクトに結ぶとともに、既存鉄道路線への乗換え等の利便性を高めてJR常磐線の混雑緩和を図り、沿線地域の活性化をめざしています。

つくばエクスプレスのイメージコンセプトは「進化する鉄道」。新しい時代の鉄道とまちづくりの在り方を提案することにより、人・物・情報の交流を密接にし、沿線に快適な居住エリアの創出を促進しています。

<つくばエクスプレスプロジェクトの目的>

1. 首都圏北東部地域の交通体系の整備
2. 既存鉄道の混雑緩和
3. 首都圏における宅地供給
4. 沿線地域における産業基盤の整備と業務核都市の形成

開業までの歩み

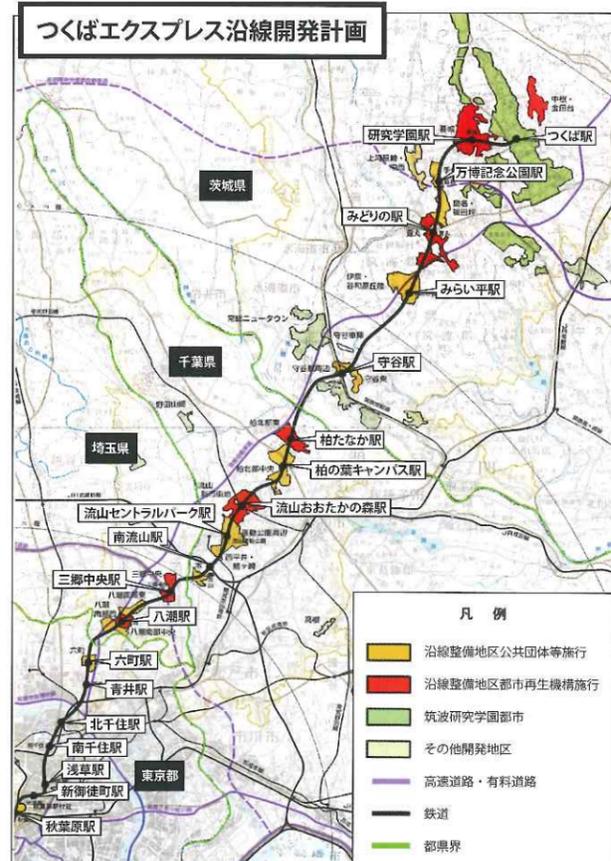
- 平成3年3月
沿線の都県及び市区などの自治体により「首都圏新鉄道株式会社」が設立
- 平成4年1月
鉄道事業法に基づく第1種鉄道免許を取得
- 平成6年10月
秋葉原で「常磐新線起工式」の開催
- 平成13年2月
鉄道の名称が「つくばエクスプレス(TX)」に決定
- 平成15年4月
第一次走行試験の開始
- 平成15年10月
各駅の駅名が決定
- 平成16年11月
全線で走行試験の開始
- 平成17年8月
全線開業

施設・設備の特徴

つくばエクスプレスの全線58.3kmの道路交差部はすべて立体交差とし、踏切のない高い運行安全性を実現しています。また「誰にでも使いやすい鉄道」をコンセプトとして、車両や駅舎にユニバーサルデザインの考え方を取り入れた設計とされています。



●つくばエクスプレス



つくばエクスプレス沿線の開発状況（茨城県内）

沿線の開発状況(茨城県内)

茨城県内のつくばエクスプレス沿線開発は、茨城県施行地区3地区(伊奈・谷和原丘陵部、島名・福田坪、上河原崎・中西)、UR施行3地区(萱丸、葛城、中根・金田台)、守谷市施行1地区(守谷駅周辺)及び組合施行1地区(守谷東)の8地区の土地区画整理事業が行われています。

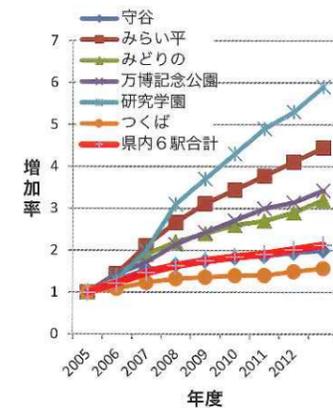
このうち守谷市域の2地区及び伊奈・谷和原丘陵部地区の事業が既に完了しておりますが、このたび、葛城地区が事業完了を迎えることとなりました。

沿線開発の進捗もあり、つくばエクスプレスの県内6駅

合計の乗車人員数を見ると、開業当初の一日2万7千人から現在は5万7千人と2倍以上に増加しています。

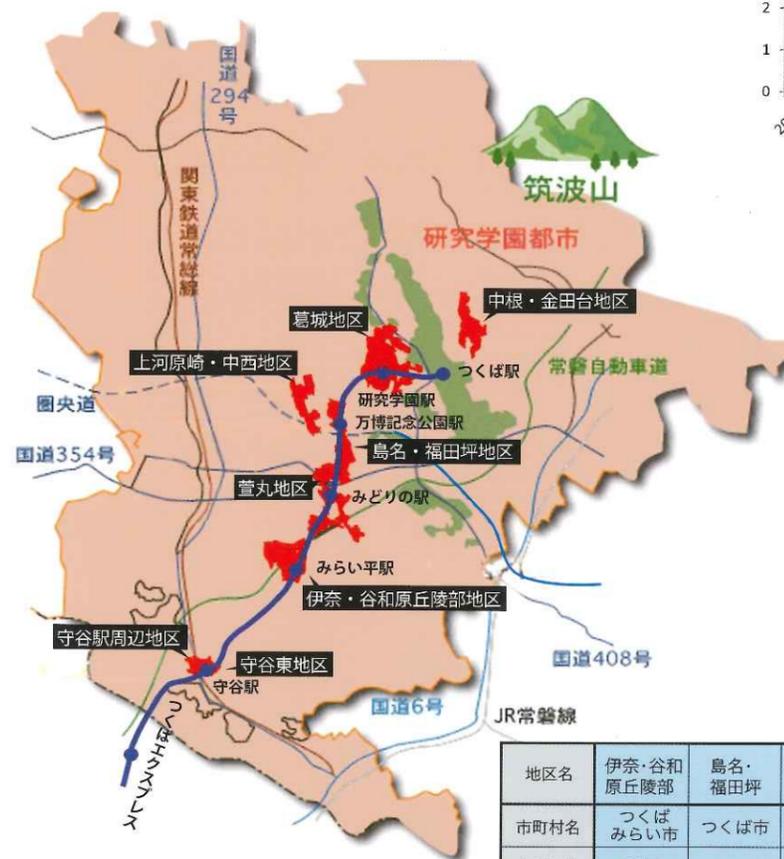
研究学園駅においては、開業当時の一日当たり平均乗車人員1,000人程度から、平成25年度末に6,000人近くに大きく増加しています。

平均乗車人数の推移 (2005年度を1とする)



	2005年度 (人)	2013年度 (人)
守谷	12,200	24,300
みらい平	900	4,000
みどりの	1,000	3,200
万博記念公園	700	2,400
研究学園	1,000	5,900
つくば	11,100	17,400
県内6駅合計	26,900	57,200
全駅合計	150,700	323,900

茨城県内の沿線開発(土地区画整理事業)



地区名	伊奈・谷和原丘陵部	島名・福田坪	上河原崎・中西	守谷駅周辺	守谷東	萱丸	葛城	中根・金田台
市町村名	つくばみらい市	つくば市	つくば市	守谷市	守谷市	つくば市	つくば市	つくば市
事業主体	茨城県	茨城県	茨城県	守谷市	組合	都市機構	都市機構	都市機構
施行面積	約275ha	約243ha	約168ha	約39ha	約40ha	約293ha	約485ha	約190ha
計画人口	16,000人	15,000人	11,000人	3,800人	2,400人	21,000人	25,000人	8,000人



●研究学園駅



●鉄道開業セレモニー



つくばエクスプレス開業前の状況

(平成14年10月撮影)

つくばエクスプレス開業前の平成14年当時は、施行区域484.7haのうち約220haを(財)日本自動車研究所の敷地が占めていました。航空写真の中央に大きなテストコースを見ることができます。また豊かな緑の森や地区東側を流れる蓮沼川の両側に田畑が広がっていました。

■従前の土地利用

○山林・原野:46%、田畑:23%、宅地:1%、公共用地:7%、その他:23% ○地権者数:約900人、約4,000筆



事業竣工時の状況

(平成26年5月撮影)

平成26年6月に事業の竣工を迎えました。つくば市新庁舎や商業・業務施設などが建設され、駅周辺を中心に市街化が進んでいます。

■土地利用

○道路:15.9%、公園緑地:4.2%、河川水路:6.4%(公共用地計:26.5%) 住宅用地:32.6%、施設用地他:40.9%(宅地計:73.5%)
○居住人口:9,157人(平成26年5月1日現在)





宅地・住宅計画等 住宅地



住宅地の供給

葛城地区の住宅地は、研究学園駅周辺の商業・業務施設用地の周囲を取り巻くように配置され、緑あふれる自然環境と調和する環境を整えています。平成16年度から開始した一般宅地分譲(戸建)、民間住宅事業者向け分譲(戸建、集合)とも好調な販売実績を残しました。



●戸建住宅(一般宅地分譲)



●集合住宅(民間住宅事業者分譲)

良好な街なみの形成

つくばエクスプレス開業に合わせて実施した初期分譲において、電線類の地中化など高水準な公共施設整備が行われ、葛城地区の良好な住宅地街並み形成の先導役としての役割を果たしました。

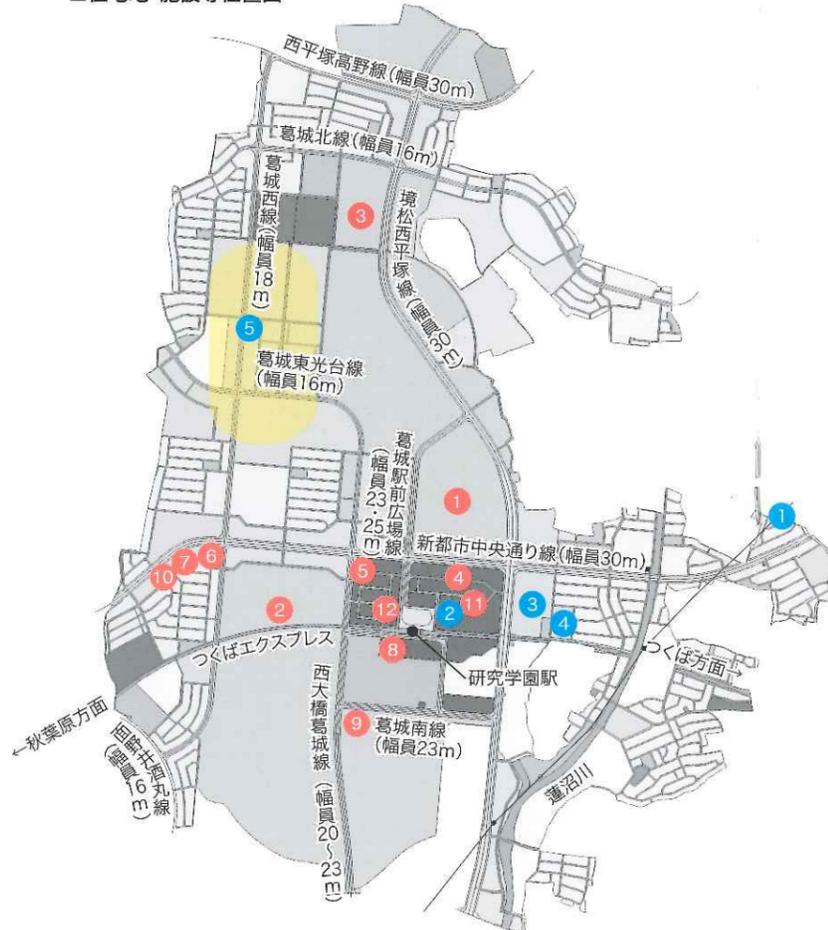


●パセオコモンズ



●ミリオンアベニュー

■住宅地・施設等位置図



●北西大街区のイメージ(提供:つくば市)

商業・業務等 施設用地



行政施設と大型商業施設

つくば市の新たな拠点形成をめざす葛城地区は、地区内外で急増する居住者の生活を支えるため、都市機能の拡充が急務となっていました。

平成20年10月、北関東最大級の規模を誇る大型複合商業施設「イーアスつくば」がオープンし、平成22年5月につくば市役所の新庁舎が開庁、平成25年7月に「コストコつくば店」がオープンするなど住みやすい環境が整いつつあります。



●イーアスつくば



●つくば市役所



●コストコ



●筑波学園ガス

沿道商業施設の立地

地区内では、周辺部に連絡する都市計画道路が整備され、沿道には広域を商圈とする家電や衣料の量販店、自動車・生活関連のショールーム、飲食・サービス施設等、商業施設の進出が進んでいます。

とくに新都市中央通り線沿いは、周辺住民の都市生活をサポートする沿道施設が多数立地しています。



●ベーカリーショップ



●結婚式場



●自動車販売店



●自動車販売店

業務施設の立地

研究学園都市は、教育研究機関や民間の研究所などが多数集積し、我が国を代表する科学技術の拠点となっています。葛城地区においても先端産業や研究機関などが進出しています。また、出張やシンポジウム等のニーズに応えるビジネスホテル等の宿泊施設の建設も進み、業務拠点としての顔が整いつつあります。



●サイバーダイナミクス研究所



●理想開発センター



●東横イン



●ホテルベストランド

鉄道・道路・公園等 基盤整備



都市計画道路の整備

葛城地区内の主要な都市計画道路は、地区を東西に横切る新都市中央通り線(幅員30m)と、地区東側を南北に貫通する境松西平塚線(幅員30m)です。境松西平塚線は南側で首都圏中央連絡自動車道「つくば中央IC」、常磐自動車道「谷田部IC」に通じており、それぞれ地域の主要幹線に位置づけられます。

地区全体では上記路線を含め幅員16mから30mの都市計画道路10路線が整備されました。

主要な都市計画道路は電線類の地中化を行い、電柱のない街並みを実現しています。

■都市計画道位置図



研究学園駅広場の整備

平成17年8月、つくばエクスプレスの開通にともない研究学園駅が開業、これに合わせ駅前広場が整備されました。駅舎は高架2層構造で、「感性の高揚と期待感が持てる駅」をデザインのテーマとしています。



●研究学園駅前広場



●道路開通式



●新都市中央通り線



●境松西平塚線

公園・緑地の整備

葛城地区内には約7.3haの地区公園と4か所の近隣公園のほか、14か所の街区公園が整備されました。

また公共緑地や約14haの大規模緑地及び民有緑地により緑の保全を図っています。



●地区公園 (研究学園駅前公園)



●1号近隣公園 (学園の杜公園)



●大規模緑地

■公園位置図



凡例

- 地区公園 (1か所)
- 近隣公園 (4か所)
- 街区公園 (14か所)
- 公共緑地
- 大規模緑地
- 民有緑地 (緑地保全型)
- 調節(整)池

環境共生型まちづくりの取り組み 雨水貯留浸透施設の整備

葛城地区では全域にわたって、雨水浸透貯留施設を設けています。これは雨水対策の一環として、都市化にともなって大量の雨水が一気に流れ込み河川が氾濫するリスクを軽減するものです。

公園などの公共施設のほか、学校や誘致施設、戸建住宅などの宅地内の地下に貯留浸透施設を設けており、地区内の調節(整)池に加え、雨水をこれらの施設で流出抑制を図った上で公共下水道に接続しています。

■基礎的な貯留浸透施設配置イメージ



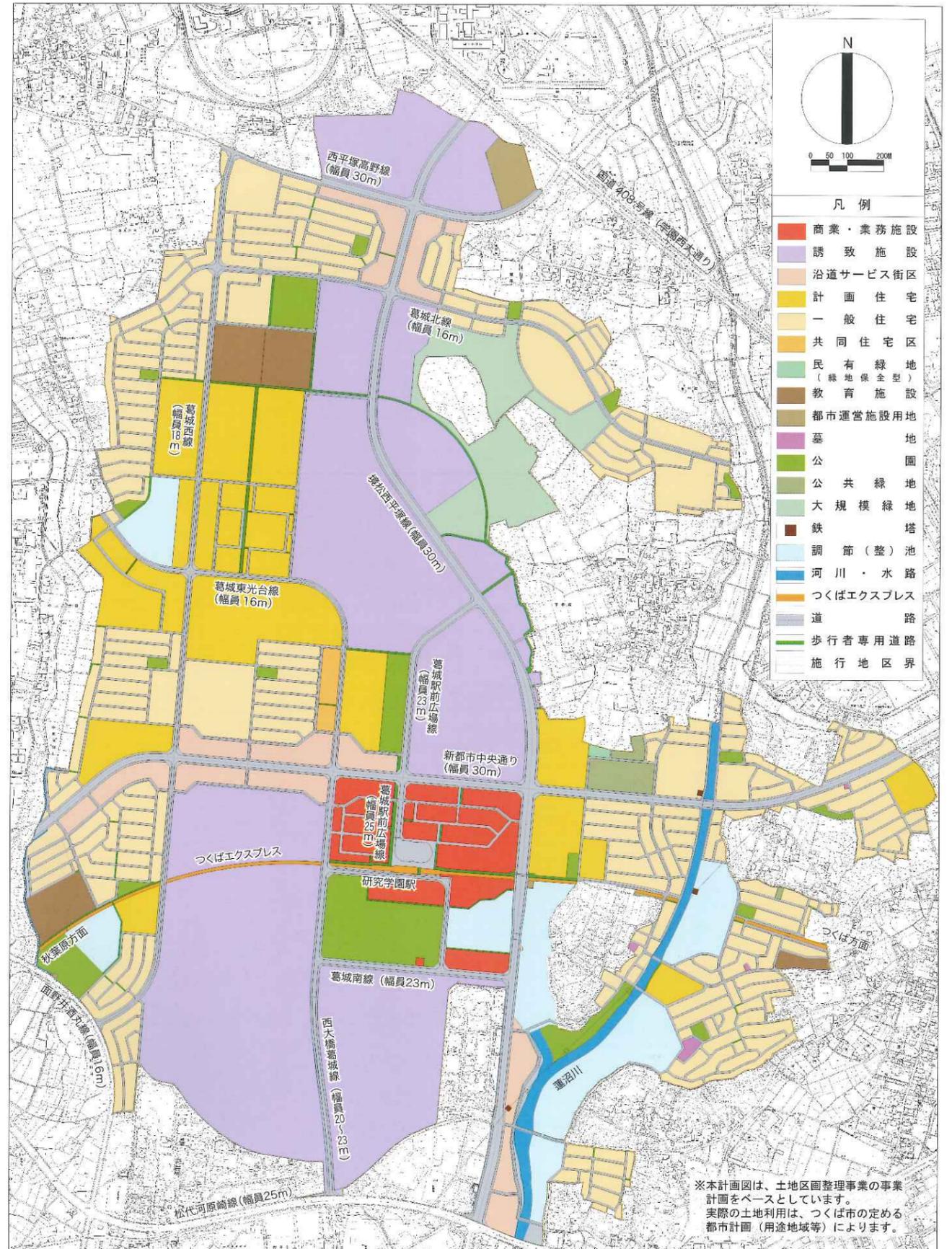
研究学園葛城地区の整備計画



■研究学園葛城地区の概要

地区概要	所在地	茨城県つくば市遠東、下平塚、葛城根崎、刈間、西岡、西大橋、西平塚、東平塚、面野井の一部								
	位置	東京都心から北東50km、筑波研究学園都市中心地から西方約3kmに位置する、南北約3.6km、東西約2.8kmの区域								
	交通	つくばエクスプレス研究学園駅から秋葉原駅まで45分(快速利用)								
	面積	484.7ha								
土地利用現況	公共用地	7%	田畑	23%	宅地	1%	山林・原野	46%	その他	23%
	地形形質	蓮沼川および谷田川支川から伸びる谷津田が標高16~20mとなっているほかは地区の大部分が標高24m~28mと比較的平坦な地形である。								
法手続	市街化区域の決定	平 11.6.10	事業計画認可	平 13.3.26	第1回仮換地指定	平 14.3.12				
	地域地区の決定	平 11.6.10	事業計画認可(1変)	平 16.3.22	第1回使用収益開始	平 16.6.1				
都市施設	の变更決定	平 16.12.17	事業計画認可(2変)	平 20.10.29	換地計画縦覧	平 26.1.28~				
	の变更決定	平 26.2.25	事業計画認可(3変)	平 25.8.21	換地計画認可	平 26.2.10				
都市施設	促進地域の決定	平 11.6.10			換地計画認可	平 26.3.18				
	都市計画決定	平 11.6.10			換地処分公告	平 26.6.27				
都市施設	3・3・14 境松西平塚線 (W=30m)		4・4・601 葛城地区公園 (7.3ha)		3・3・601 葛城1号近隣公園 (2.0ha)					
	3・2・37 西平塚高野線 (W=30m)		3・3・602 葛城2号近隣公園 (1.6ha)		3・3・603 葛城3号近隣公園 (2.0ha)					
計画概要	土地地区画整理事業の目的	<p>大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法(平成元年法律第61号)が法制化され、重点地域としての指定(平成3年10月25日)を受けたことから、同法に基づき一体型土地区画整理事業の実施により、宅地開発及び鉄道整備を一体的に推進し、新たな拠点形成を図る必要性が高まっている。</p> <p>本事業は、都市基盤整備と合わせて良好な市街地形成を図り、良質な住宅・宅地の供給を行うとともに、都市高速鉄道常磐新線の整備による交通事情の改善と都市機能集積の促進を図り、もって地域の秩序ある発展に寄与することを目的とする。</p> <p>なお、事業の実施にあたっては「つくば市環境基本条例」に基づき、河川、下水道事業と一体となった水循環システムを構築し、自然豊かな牛久沼流域への環境負荷を低減させることに留意することとする。</p>								
	施行期間	平成13年3月26日~平成31年3月31日 (清算期間5年間を含む)								
	計画人口	25,000人 (約50人/ha)								
	公益施設	小学校用地3箇所(うち1箇所は地区隣接既存小学校の拡張)、中学校用地1箇所を計画								
	公園緑地	地区公園1箇所、近隣公園4箇所、街区公園14箇所、公共緑地5箇所								
	供給処理	上水道	つくば市水道から供給を受ける。							
	下水道	分流式整備とともに貯留浸透施設の設置を積極的に行う。								
	ガス	筑波学園ガス(株)から供給を受ける。								
	電気	東京電力(株)から供給を受ける。								
	減歩率	平均40.0%								
土地利用計画	公共用地	区分	面積 (ha)	割合 (%)	備考					
		道路	77.2	15.9						
		公園・緑地	20.4	4.2						
		河川・調節池・水路	25.9	5.3						
		調整池	5.1	1.1						
	宅地	小計	128.6	26.5						
		住宅用地	計画住宅用地	52.2	10.8					
			一般住宅用地	104.4	21.5	大街区宅地17.0ha含む				
			共同住宅区	1.3	0.3					
		施設用地	商業業務	14.5	3.0					
			沿道サービス	16.1	3.3					
			教育施設	8.3	1.7					
			誘致施設	140.2	28.9					
			鉄道施設	2.1	0.4					
			都市運営施設	2.3	0.5	鉄塔0.07ha含む				
民有緑地	0.2		0.0							
大規模緑地	14.1	2.9								
墓地	0.4	0.1								
小計	356.1	73.5								
計	484.7	100.0								

■土地利用計画図



地区計画の目標

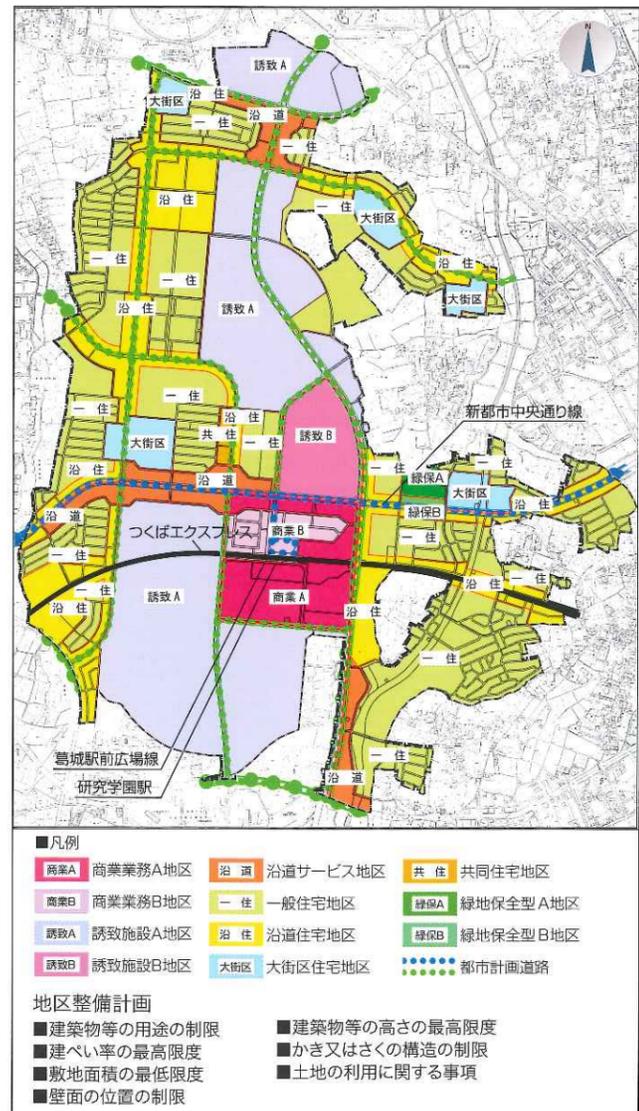
本地区は、つくばエクスプレス沿線開発地域の区画整理事業地区の一つとして、沿線地域のまちづくり理念に基づく市街化を計画的に誘導し、地区の立地特性をいかした商業・業務施設、公益施設、住宅等が複合した良好な田園市街地の形成と、将来にわたる地区環境の保全を図っていくことを目標とします。

<出典：「葛城地区地区計画によるまちづくりガイド」つくば市>

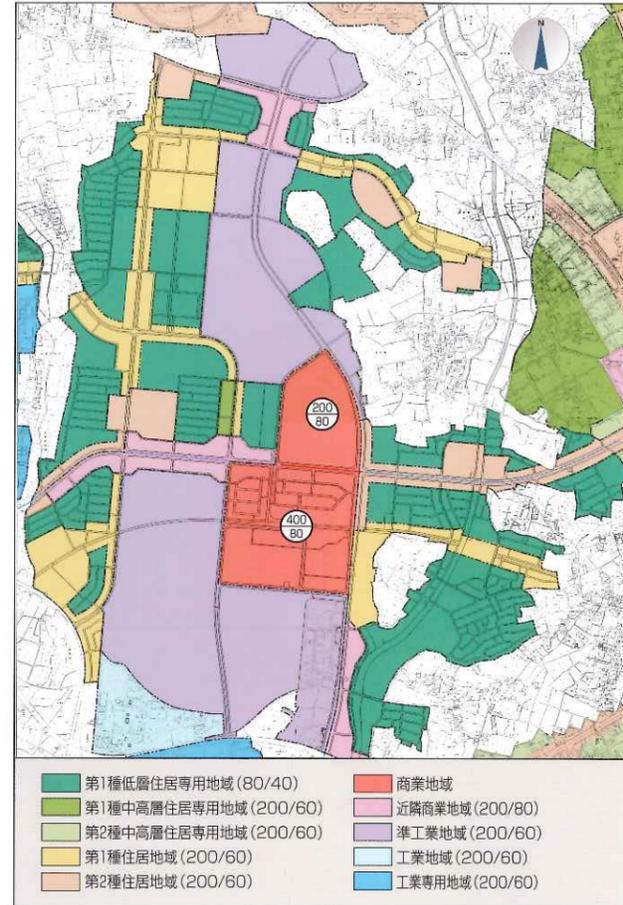
新町名について

本地区は換地処分公告の翌日から新住所となります。町名は学園の森1丁目～3丁目、研究学園1丁目～7丁目、学園南1丁目～3丁目になります。

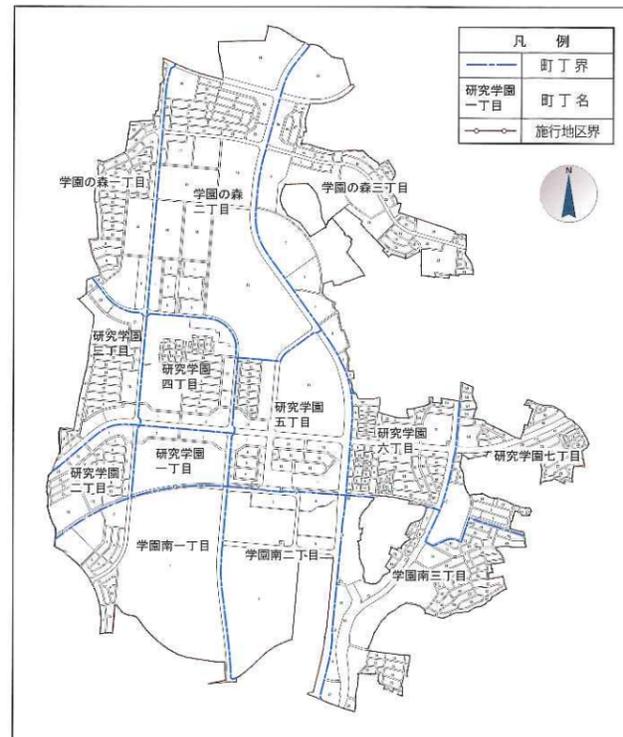
地区計画計画図



用途地域計画図



新町名図



研究学園都市計画事業葛城一体型特定土地区画整理審議会

氏名	第1期 (H13.9～H18.9)	第2期 (H18.9～H23.9)	第3期 (H23.9～)	備考
高野 正義	会長			
野堀 喜作	会長代理			
高谷 榮司	委員			
中野 毅	委員			
高谷 俊衛	委員			
櫻井 藤郎	委員			
奥山 昭政	委員			
金川 清治	委員			
高野 洋一	委員			
池邊 昭吾	委員			
石山 登一	委員			
高野 皓市郎	委員			
岡田 豊彦	委員			
(株)間組				H23.9より (株)安藤・間組
中島 長治	委員			
岡 君江	委員			
中野 正芳	委員			
小吹 和則	委員			
山中 敏子	委員			
瀬尾 嘉明	委員			
杉田 均	委員			
吉川 直行	委員			
高野 和重	委員			
相澤 健太郎	委員			
本清鋼材(株)	委員			
小笠原 英紀	委員			画地測量設計(株)
石川 進	委員			つくば市 社会福祉協議会
鈴木 國勇	委員			つくば市 谷田部農業協同組合
穴戸 薫	委員			(財)茨城県 建設技術公社
北郷 新平	委員			茨城県OB
横田 伊佐夫	委員			つくば市 谷田部農業協同組合

評価員 (就任順・敬称略)

水戸地方法務局 つくば出張所長	香取 賛 (H13.09.26～H14.06.11)
	鹿志村 攻 (H14.06.12～H16.07.20)
	鈴木 保男 (H17.07.21～H18.07.03)
	河西 幸男 (H18.07.04～H19.06.27)
	大越 範男 (H19.06.28～H20.06.12)
	植木 稔 (H20.06.13～H23.04.14)
	小松崎 仁 (H23.04.15～H24.07.02)
	鈴木 勝 (H24.07.03～H25.05.08)
沼田 和夫 (H25.05.09～)	
つくば市財務部 資産税課	久保田行夫 (H13.09.26～H16.06.29)
	浅野 昭夫 (H16.06.30～H19.06.27)
	木村 修寿 (H19.06.28～H21.06.11)
	大里 吉夫 (H21.06.12～H23.04.14)
	久我 勉 (H23.04.15～H25.05.08)
矢口 秀一 (H25.05.09～)	
(財)日本不動産 研究所 (株)中央不動産 鑑定所	鈴木 真一 (H13.09.26～)
	石垣 智英 (H13.09.26～H19.06.27)
	早川 通治 (H19.06.28～H22.02.17)
	尾張 明 (H22.02.18～)
(株)常陽産業 研究所・ (株)常陽銀行	渡邊 幹雄 (H13.09.26～H14.09.25)
	栃木 通雄 (H14.09.26～H18.10.30)
	増山 弘 (H18.10.31～H21.08.31)
	大山 敬次 (H21.09.01～H23.10.13)
	下山田 和司 (H23.10.14～H25.10.28)
	小野 博史 (H25.10.29～)